

# 自分の良さを伝える学習

## ～就職面接を活用して～

### 1 きっかけ

#### 対人関係に悩める時代

内閣府の「低年齢少年の生活と意識に関する調査報告書」（平成19年2月）では、友達や仲間のことで悩みや心配事があると答えた中学生が、平成7年11月の同じ調査の8.1%から20.0%に増加しています。

また、文科省の平成20年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」では、高等学校生徒が不登校になったきっかけとして考えられる状況として、友人関係をめぐる問題が学業不振に次いで2番目に挙げられています。これは同じく高等学校を中途退学する理由としても挙げられています。

さらに、ある調査では、約8割の大学等において、対人関係に関する相談内容が増加しているとの回答がありました。（日本学生支援機構「大学、短期大学、

#### （1）当時勤務していた学校の話

中学を卒業してほとんどの者が高校に進学する現在、高校に入学してくる生徒たちの中には、積極的に高校生活を送ろうとせず、漫然と過ごし、卒業していく生徒たちが少なからずいます。

私が勤務していた高校でも、目的意識や学習意欲を持たず、「学校がおもしろくない。」「授業がつまらない。」と嘆く生徒が多いように感じました。また、自分の考えを述べたり、書いたり、相手の言うことを聞き取ったりすることに対して苦手意識が強く、特に、授業中にノートを取ったり、情報を自分の言葉でまとめたり、授業内容を理解したりという、基本的なところに課題がありました。その原因としては、授業で使われている言葉が理解できず、質問したいが、どのように聞いたらいいのか分からないなど言語やコミュニケーションへの抵抗感があるのではないかと考えられます。これは、自己表現に対する自信の無さとも密接な関係があると考えられるからです。そして、自分の思いを相手にきちんと伝えることができず、友達と円滑な関係が結べないことが、いじめや不登校の原因にもつながっていると感じました。

#### （2）自己の表現に自信をもたせるためには

現代においては、表現の手段は大きく変化しており、文字や音声さらに映像など様々な媒体が複雑に融合し合っていて、コミュニケーション活動が行われています。携帯電話・テレビ・ファックス・パソコン等は、時間的・空間的にコミュニケーションエリアを拡大しましたが、それはもはや生きた「声」による直接的な通じ合いではなくなっています。

高校生という発達段階を考えた時、自己の表現に自信をもた

高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査（平成20年度）このように対人関係面でのつまづきが青少年世代で大きな問題となっています。円滑な対人関係を築きやすくするためにも、コミュニケーション能力を高める取り組みが重要となります。

### キャリア教育とコミュニケーション能力

キャリア教育が小学校段階からも進められるようになりましたが、低年齢からも重視される内容として「人と関わることの大切さを理解させ、それを円滑に行う力を身につけさせる」ことが挙げられます。これはまさにコミュニケーション能力の向上に他なりません。また、キャリア教育では、年齢段階が上がるほどより課題が現実的となるため、目的意識を持って取り組みやすくなると言えます。

せるためには、友達など学校内における同質集団に向けた表現経験ばかりではなく、社会生活の実際の場面においても、相手を意識した豊かなコミュニケーション関係を成立させるといった体験が必要ではないかと思えます。

スピード化する社会の中で、ともすれば人間関係のつながりや、他人に対する思いやりよりも、自己の都合を優先しがちになっています。生徒たちが思い切って自己を表現するためには、その前提として教室、さらに言えば、学校や社会において一人一人が目的を持ち、「話す」「聞く」活動を通して安心してコミュニケーションを営める環境作りが必要であると考えます。

### （3）学習支援を取り入れた授業作り

今までの自身の授業を振り返って見ると、場を考えたり、個に即した指導が不足したりしていました。学習意欲のない生徒をいかに指導するか悩むだけで、何も解決しないまま、ただ生徒を叱咤激励するだけの毎日でした。また、教科書中心の一斉指導が主で、その子なりの力を伸ばす個に即した指導ができていなかったように思われます。

この自身の授業の反省を活かし、話すことが生きる場、聞くことが生きる場と考えて、個に応じた支援を行って行きたいと考えました。そのためには、子どもたち自身がゴールのイメージをもって、自分たちの活動を進め、目的をもって言語生活をする場を教師が作らなければならないと思いました。

そこで、就職面接を成功するための場（生徒の生活に関わりが深く、必要感があって本気でやりたくなるような目的意識の持てる場）を設定し、生徒が目的を持って学び、その局面で必要な個に即した学習素材を用意し、生徒一人一人の進度に応じた学習支援を取り入れた授業作りをしていきたいと思案しました。

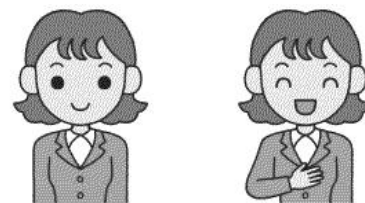
## 2 実践のための準備

### 企業のニーズ

（社）日本経済団体連合会新卒採用（平成22年3月卒業者）に関するアンケート調査結果（平成22年4月）において、選考にあたって特に重視した点としてコミュ

### （1）企業訪問

近隣の企業を訪問し、人事担当者から面接時に何を重点に置るか（表情、話し方、態度等）、会社が求めている人物像、能力について聞きました。訪問する企業については、生徒の希望する業種（サービス、製造、卸売等）が多いものを選びました。訪問したほとんどの企業の人事担当者から、「コミュニケーション能力」、「協調性」、「向上心」の必要性についてのお話をい



コミュニケーション能力を挙げた企業が8割を占めました。

また、調査を開始したこの10年間で、コミュニケーション能力を重視する傾向は、他の要素に比べて年々顕著になっています。これは、企業において早期離職の割合が年々高まり、その理由として人間関係をめぐる課題が挙げられることが多いため、コミュニケーション能力が重視されていると考えられます。



### 3 とりくみ

#### マッピング

一つのキーワードから言

ただき、今後指導する上での多くのヒントをいただきました。

#### (2) 自分に合う企業を考えさせる

まず、職業に関する意識を調査し、就職するために必要なことを考えさせました。次に、企業から得た情報を参考に、自分に合う企業を選択させました。配布した資料の中から、会社が求めている人物、能力を読み取らせ、ワークシートに書かせました。ここでは、「人との交流、コミュニケーションが仕事をする上で大切（販売希望女子）」「人と集団行動をとれるようにしたい（製造希望男子）」等、働く上で業種によって求められている特質があることに気付いた生徒もいました。また、資料を読み取り、自分に合う企業を考えることによって、自分の目指そうとする職業のヒントにしていく生徒も出てきました。さらに、昨年度求人票を公開した企業のパンフレットやインターネットで検索した情報を使い、自分が働きたい企業を選択させました。そして、なぜその企業に行きたいのか理由を挙げさせました。今年度の求人票公開が迫っていたこともあり、生徒は、意欲的に取り組むことができました。

#### (3) 企業の人事担当者を招いて話を聞く

生徒から司会者を出し、その司会者を中心に、企業の方からどういう話を聞きたいか生徒同士交流させながら、人事担当者（サービス業）の方から仕事の内容、会社の求めている能力、面接時に重視することについて話を伺いました。自分たちが聞きたい内容の話だったので、普段の授業とは違い、メモを取ったり、真剣に耳を傾け聞いていました。特に、お客さんとのエピソードの話になると、顔を上げ、いつにもまして話を聞いている者が多く、その後、面接の技術、一般常識についての質問など、具体的な質問が出ていました。生徒の感想を整理したところ、多くの生徒は、面接で役立つ情報が得られて、今後の面接に活かしたいと述べていました。

#### 単元「自己の良さを伝えよう」

(国語9時間、総合的な学習6時間、計15時間)

#### (1) 自己分析(第1時～第4時)

##### ① マッピング

ここでは、未来の自分の仕事を考えさせ、それに近づけた

葉を自由に連想し、紙などに書き表していくものです。それは、自分の頭の中にあるものを、地図のように目に見える形で表す作業であり、様々な学習に応用が可能な手法です。同様なものにウェビングがあり、

めに何をしたらよいか取材の能力を身に付けさせるのがねらいでした。まず、マッピングの手法を使って、未来の自分の仕事を起承転結で発想させました。次に、その発想を基に、自分の物語を考えさせました。その際、模範例〈資料1〉を生徒に提示し、それを生徒と一緒に読み、どこにポイントを置いて書いたか説明をしました。その結果、未来の自分に近づけるためには何をしたらよいか考える生徒が出てきました。

〈資料1〉 生徒に提示した模範例

未来の自分

【起】私は、現在ホテルのフロントで働いています。主任や先輩に教えてもらい、接客のプロとして日々頑張っています。フロントの仕事は、お客様が楽しむためのきっかけを作るところです。ホテル内の案内はもちろんのこと、お客様からの質問に自信を持って答えられるように、日々勉強しています。今日も笑顔でお客様を迎え、お客様も喜んでくれています。

【承】ある日、車椅子のお客様がいらっしやいました。私はずっとしたことは、お客様を不安にさせないように、お客様の目線でお話をうかがうことでした。もちろん笑顔で接することは、忘れませんでした。お部屋まで案内し終わった時に、お客様から握手を求められ「ありがとうございます。本当に嬉しかった」と声を掛けていただきました。その時、この仕事をしてよかったと思いました。

【転】先輩から「よくやっているな」とほめられました。私は、ホテルマンとして、一生やっていける自信がつきました。

【結】私は、ホテルマンとして後輩を指導しながら、まわりの人やお客様に明るく接するように心掛け、日夜頑張っています。

一つの言葉からウェブ（くもの巣）のように関連するものをつなげていきます。どちらも子どもがより主体的に学習活動に取り組んでいく上で効果が期待できます。この取り組みでは、学習意欲の持ちづらい高校生への動機付けとして活用されました。

## ② 生徒間の意見交流

次に、自己の表現活動を調整する能力を育成するために、自分たちの進路を実現する上で何が必要か考え、交流させました。まず、進路を実現するために必要なこととその対応策、今後の課題を個人で考えて、ワークシートに記入させました。そして、業種別にグループ（5～6人）を編成し、意見を交流しました。グループによっては、同じ意見が出て、意見を統一できたところもあれば、様々な意見が出て、個人によって考えが違うことを認識したところもありました。グループの代表者が交流した内容を発表し、その後、個人で発表しました。ここでは、グループ毎に交流することによって、同じ考えを共有したり、違う考えを知ったりすることによって、自分の行動を反省することができました。意見交流の感想では「少しでもみんなに分かりやすく話さないといけない。」「話す時はゆっくり話そうと思った。」などが寄せられており、



## ロールプレイ

ロールプレイ（役割演技）は、自分と違う立場の人になったつもりで、その役割を演じるものです。それによって相手の考えの背景や立場を理解したり、気持ちを体験したりすることにつながります。

今回のように学習活動としてロールプレイを取り入れることも効果的ですが、教職員が生徒の立場に立ってロールプレイを行うことも、生徒の気持ちを理解する上で有効です。

この授業で自己の表現活動を調整する能力が高まったと考えられます。

## （２）想定問答集と台本作り（第５時～第９時）

### ① 想定問答集作り

ここでは個々の話題を具体的に表現させ、面接で使える言葉、問答の言葉を整理させるために、個々の問答集を作らせるのがねらいでした。

始めに業種別の参考資料から自分に必要な質問事項を考えさせ、続いて、面接の質問事項に沿った個々の問答集を作らせました。まず、模範例を見て、参考になるところを探させました。次に、質問・応答を分類毎に考えてワークシートに記入させました。この時、グループでアドバイスしながら書かせました。しかし、何をどう書いたら良いかイメージできない者が多く、どうしても書けない生徒には、模範例を書き写すよう指示しました。

### ② 面接のロールプレイ

面接とはどういうものか、説明するだけではなく、具体的にイメージさせる必要があると感じました。そこで、個々の生徒にしっかりイメージさせるために、面接のロールプレイを実施しました。２、３人の生徒に全員の前で具体的な質問をし、答えさせました。そして、自己をアピールできる者とできない者の差を生徒全員に振り返らせました。多くの生徒は、自己の分析が不足していることに気づき、面接で自己を上手くアピールするためには、しっかり準備しなければならないことを理解できたようでした。その結果生徒は、自己を見つめ直し、面接で使える言葉、問答の言葉を整理しながら個々の話題を表現し、問答集を完成することができました。この面接のロールプレイは、生徒に面接をイメージさせ、自己分析を促す手立てとしてかなり効果的であったと考えます。

### ③ 面接の台本作り

さらに、具体的な面接の構成の仕方や面接でふさわしい言葉遣いを身に付けさせるために、台本作りに取り組ませました。ここでは、面接の入室から退室まで実際の面接に即した台本をワークシートを使って書かせました。ほとんどの生徒は、面接の流れとそのとき使われる言葉を確認しながら台本を完成することができました。〈資料２〉

この面接台本を書かせる授業は、生徒に面接の構成の仕方や面接でふさわしい言葉を身に付けさせる方法として有効だったと考えます。



〈資料2〉女子生徒が作成した台本

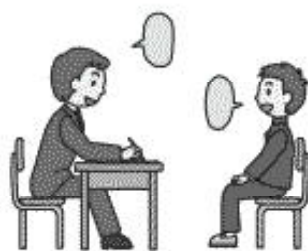
⑥	⑤		④	③	②	①	段階
退室	退席		試問	着席	入室	呼出	流れ
「礼」ドアを静かに開閉 (「アーン」終わった) などとノビ	「これで結構です」と言われたら 椅子の横に立ち「礼」	・友達は多い方ですか。また、あなたにとって友達は何ですか。 ・生徒会活動又は委員会活動は何かしていませんか。 ・クラブ活動は何をしていましたか。あなたにとってクラブ活動は何でしたか。 ・あなたは、休日をどのように過ごしていますか。 ・学校生活に関すること	・職業観・勤労観に関すること ・当社を志望した理由について説明してください。 ・働くことの意味について、あなたはどう考えていますか。 ・仕事をしていく上で心掛けたことは何ですか。 ・個人に関すること ・あなたの長所・短所を教えてください。 ・アルバイトの経験はありますか。そこで得たものは何ですか。	椅子の横に立ち「礼」 (入り口から自然な動きで)「アーン」で静かに着席 (モンモンと衣服を直し過ぎない)	・静かにソック(下ントン)「アーン」でドアを開閉する ・面接官の方を向き ・礼をする	・はっきり澄んだ声で応える	ポイント その時の言葉
	「はい、あいがとりました。」	はい、二年次に生徒会で書記をしていました。委員会活動では、放送委員をしていました。 はい、クラスの友達や部活動の友達など大勢います。私にとって友達は、道義を教えてくれたり、かけがえのない思い出を一緒に作って一緒に存在です。	試問の応答 はい、書社は歴史が古く、有名な方々が多いことと、私が憧れている皆川純子さんが所属しているのを志望しました。 はい、働くことは、生きていくために必要なこととあり、自分の能力を出し切ることだと思います。 はい、いつも向上心を忘れずに感動を与えてくれる人になりたいと考えています。	「はい、先礼します。」	「失礼します。」	「はい」	

(3) 模擬面接 (第10時～第15時)

ここでは、模擬面接を一人2回行い、相手を見たり、声を大きく出したり、具体的に話題を盛り込むなど、相手(面接官)を説得する方法について学ばせ、自己の表現活動を調整するのがねらいでした。

① 模擬面接1回目

一人10分の面接(面接官教員1名、生徒1名)を各会場(6会場)3名ずつ行いました。一人一人のめあて(面接で何を心がけるか)を確認した後、面接を実施し、最後に面接官や各会場で聞いていた生徒全員から、面接内容についてチェックを受けました(チェックシートの記入)。その後、交流の手引きに従って、司会者が指示を出し、自己の面接内容について、まわりのアドバイス、面接を受けた者の今後の対応について相互に評価し合いました。面接のめあてを述べさせるころでは、声の大きさ、目線、答え方等の技術面を意識しているものがほとんどで、内容面について意識していませんでした。面接の相互交流では、交流の手引きに沿って、司会者やその他の生徒も、交流をスムーズに進めることができました。しかし、自己評価、アドバイス、今後の対応について、話題に触れている者が少なく、個々の生徒に話題を持たせる手立てが早急に必要だと感じました。



## ② グループワーク

そこで、話題を探し、効果的に使う方法を考えさせるワークを、以下のように生徒を3グループに分けて実施しました。

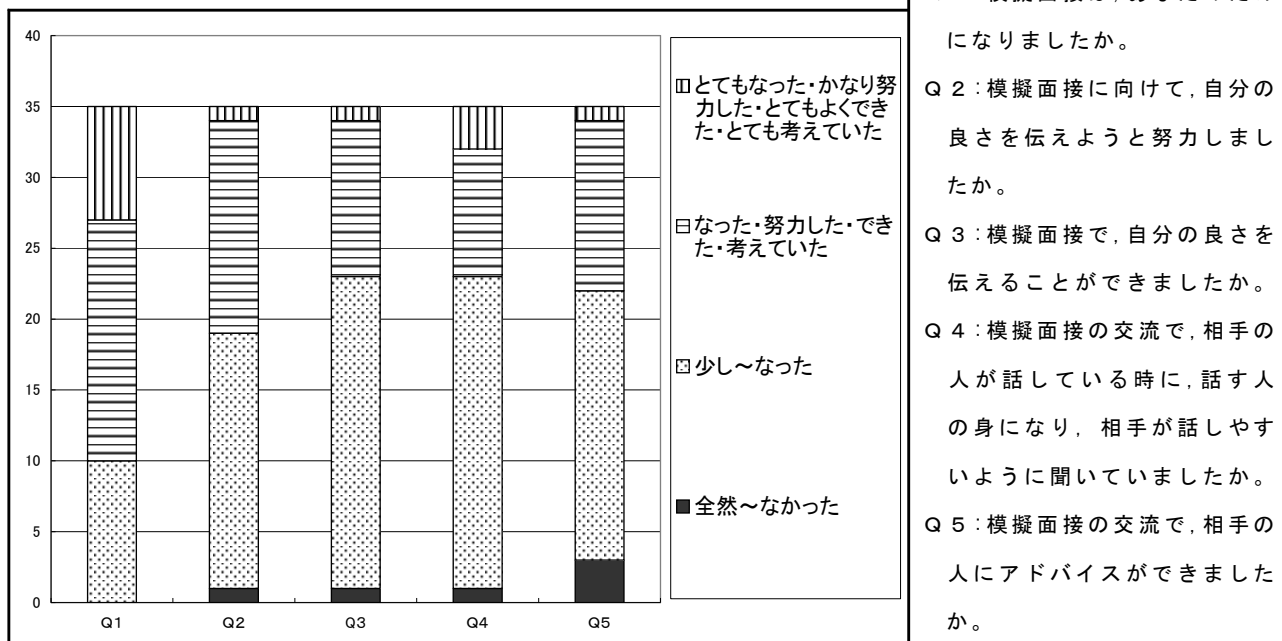
	グループ1	グループ2	グループ3
対象	話題のない者	話題はあるが効果的に使っていない者	話題はあまりないが、ある程度話ができる者
活動	○話す材料や又は面接で生きる具体物を探し、それぞれワークシートに記入した後、一人2分程度のプレゼン実施。		
	・園芸科のことを話題の中心にした手引きを用意し、それを活用させながら自己の話題について考えさせた。	・面接で生きる具体物（農作物など）を探して、みんながわかるようにエピソードを入れて説明した原稿を書かせた。	
評価	・自分で作り上げた原稿を元に、自己の話題を具体的に語るできるようになった。 ・話す内容が具体的になったと述べる生徒が多く、相手に自分のことを伝えるためには、話す材料がいかに大切か理解できたようだった。	・質問が多く出て、生徒は、ただ説明しただけでは相手に伝わらないことや自分がわかっても相手には伝わらないことを理解できたようだった。	・具体物の説明をする者が多かったが、中には体験談を交えて説明する生徒もいて、体験を入れた説明が相手を説得することに気づいた生徒も出てきた。

以上のことから、やはり相手に分りやすく説明するには、体験談を交え、具体的に相手に説明する必要があると考えます。

## ③ 模擬面接2回目

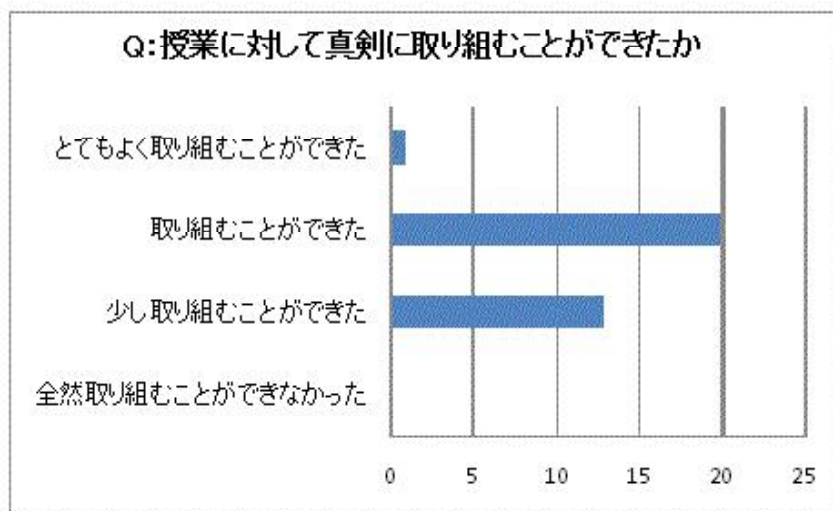
4会場に分かれて面接を実施しました。ここでは、自己の表現活動が調整できているか確認するのがねらいでした。生徒は2回目ということもあって手際よく一人8分の面接時間の中で、めあてを考え、1回目の面接の反省を生かした内容になるよう努力しました。努力の甲斐あって、今まで話題のなかった者が、話題を持って相手を説得することが少しずつできるようになりました。〈資料3〉

〈資料3〉 模擬面接の振り返り



また、複数回の模擬面接やグループ交流を通して、自己の表現活動を調整する能力を高めることができました。模擬面接後の感想、授業後のアンケートでは、今まで学習意欲が持てなかった生徒、自分に自信のなかった生徒の意識の変化が見られました。〈資料4, 5〉これは大きな成果であったと考えます。

〈資料4〉授業後アンケート



〈資料5〉模擬面接の感想の抜粋



- A 男 練習の大切さ、質問の答え方が勉強になった。
- B 女 面接をしたことで慣れてきた。そのお陰でちょっと楽に話せることができた。
- C 男 面接をやることで自分の悪い所がわかり、もっと早くやっていたらよかった。面接官をやると相手のことがよくわかると思った。
- D 男 準備をしていない質問に答えるのは、難しいと思った。
- E 男 みんなの面接がよい手本になり、本当にやって良かったと思った。
- F 男 模擬面接をやって良かったと思う。みんなからいろいろアドバイスを受けたので、よくない所が見つかり良かった。

## 4 見えてきたこと

この実践では、就職面接を活用したコミュニケーション単元を設定し、実社会で生きて働く力の育成を目指して授業作りを行いました。その際、学習活動を行っている生徒一人一人をよく見て評価し、その評価に応じて必要な支援を行ってきました。



### 個に即した支援

一般的に小学校・中学校・高等学校と年齢が上がるにつれ、個に即した支援が行われることは少なくなっています。逆の言い方をすると、成長と共に個別の支援の必要度が減ってくるということになります。けれども個別の支援があった方が、より学習の理解が進んだり、活動への取り組みがしやすくなったりするという意味では、どの年齢段階でも必要に応じて行われることが望ましいです。

### 社会的能力を身につけるために

この取り組みの「相手を説得する方法を学ぶ」ことは、本来子ども同士、あるいは大人とのかかわりの中で身につけていく社会的能力の一つです。けれども、それが難しい現代の状況においては、改めてソーシャルスキルトレーニングとし

#### ① 自己分析を促す支援

まず、想定問答集作りの授業の中で、面接のロールプレイを実施したことが挙げられます。これは、何をどう書いたら良いかイメージできない生徒が多く、どうしても書けない生徒の支援として考えました。この面接のロールプレイは、個々の生徒に具体的な面接のイメージをもたせ、自分について考えさせるきっかけとなりました。特に今まで面接についてイメージがもてず、取り組めなかった生徒が、意欲的に取り組むようになったのは、この支援の成果だったと考えられます。この面接のロールプレイは、生徒に面接をイメージさせ自己分析を促す支援としてかなり効果的であったと思います。

#### ② 個に即した支援

次に、模擬面接を実施した後、生徒の面接の様子から、個々の生徒に話題を持たせる手立てが必要だと感じ、生徒一人一人に、話題を探し、効果的に使う方法を考えさせたことが挙げられます。面接の内容や生徒の意識が、声の大きさ、目線、答え方等の技術面を意識している者が多かったため、このような支援を考えました。結果として、今まで話題のなかった者が、自己の話題を少しずつですが、具体的に語るできるようになりました。グループ交流の中でも、話す内容が具体的に変わったと述べる生徒が多く、相手に自分のことを伝えるためには、話す材料がいかにか理解させることができました。ただ、ここでは、話題はあるが効果的に使っていない生徒に、面接で生きる具体物（農作物など）を探させて、原稿を書かせましたが、多くの生徒が具体物の説明で終わってしまいましたので、もっと体験談をいれた説明を考えさせれば、より具体的な話題になったのではないかと反省しています。

#### ③ 生徒一人一人の進度に応じた学習支援

模擬面接の2回目では、今まで話題のなかった者が、話題を持って相手を説得することが少しずつできるようになりました。特に、今まで学習意欲が持てなかった生徒、自分に自信のなかった生徒が、自分のコミュニケーションのイメージをもち、相手を説得する方法を学ぶことで、やる気と自信をもつことができました。このことは、生徒が授業を通して、目的を持って多くのことを学んだからだと考えます。また、生徒が目的意識を持てるよう、教師が生徒一人一人の進度に応じた学習支援を取り入れた授業作りができたからではないかと考察します。

て機会を設けて身に付けさせるなど、具体的に学べるようにすることが必要となっています。

以上のことから、教師が、生徒一人一人の実状を把握し、学習が効果的になるよう支援し続けることは、授業作りには必要だと考えます。生徒が学ぶ意欲を持つためにも、常に指導が適切であるかどうか判断し、その判断に応じて指導を修正する。つまり、評価と支援が一体化した授業作りが、これからの高校には必要だと考えます。

#### コラム5【ソーシャルスキルトレーニング】

ソーシャルスキルはその言葉どおり「人間関係に関する技能」のことで、対人関係を円滑にし、社会生活をスムーズにするための技術と言えます。そしてこのソーシャルスキルを、場面や機会を設けて意図的に学べるようにする取り組みのことをソーシャルスキルトレーニングと言います。発達障害のある子どもたちは、その認知の特性からソーシャルスキルを日常生活の中で自然に習得することに困難さがあるため、ソーシャルスキルトレーニングが有効な支援方法の一つとして活用されてきた経緯があります。

一方、近年の学校現場において、ソーシャルスキルトレーニングを障害の有る無しにかかわらず、通常学級の児童生徒に対しても実施することが多く見られるようになってきました。（この場合、教育の一環として行うことから、ソーシャルスキル教育という名称が使われる場合もあります。）その背景には、この章で触れられて来た通り、対人関係においてつまづきを見せる子どもたち（実際は大人についても同様なことが言えるかも知れません）が増えているという状況があります。

ソーシャルスキルトレーニングの内容は、主張性スキルなどコミュニケーションに関することや友情形成など集団行動に関する事、セルフコントロール（自己統制）に関する事など多岐にわたります。また指導として行われる一般的な流れとして、次のような構成が挙げられます。

- ①教示（インストラクション）
- ②モデリング
- ③リハーサル（繰り返し練習）
- ④フィードバック（振り返り）
- ⑤般化

なお、指導場面で取り上げる標的スキルを選び、プログラムを組んでいく上で、子どもの実態を的確に把握することが必要なため、事前のアセスメント（アンケート調査など）も重要になります。

いずれにしても、ソーシャルスキルトレーニングを通して、対人関係のスキルを高めると共に、自己肯定感や自己有用感を高めることもねらいとなります。



## コラム6【地域連携アクティブスクール～地域・生徒のニーズに応じた高等学校づくりに関する取組】

高等学校から社会・職業への移行過程が長期化し、複雑化している中、個々の学校の対応だけでは限界があることから、今までの実践を活かした、新たなタイプの学校のシステム構築が求められています。

千葉県は、文部科学省から「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の委嘱を受け、「地域連携アクティブスクール」を平成21・22年の2年間、実践研究を実施しました。

「地域連携アクティブスクール」が目指すものは、地域との協同により、社会との関連を重視して、一人一人の生徒に応じた「学び直し」や「実践的なキャリア教育」を行い、これまで十分に発揮しきれなかった生徒の能力を引き出し、コミュニケーション能力や倫理観等を身に付け、地域とともに生きる自立した社会人を育成することです。

本県ではこの考えに基づき、4つの県立高等学校が研究校の指定を受け、2年間の研究を進めました。この事業の主な概要は、以下の通りです。

- (1) 地域関係者による地域連携アクティブスクール推進協議会を設置して、地域の小中学校、地元商工会・自治会との連携による多様な教育システムの構築をする。
- (2) 就職支援に向けた、地域産業やジョブカフェ等との連携による、体験的なキャリア教育プログラムの開発をする。
- (3) 新学習指導要領に示された「義務教育段階での学習内容の確実な定着」を活かし、職業人を育成するカリキュラム、教材の開発をする。
- (4) 社会的・職業的自立を目指す生活指導やカウンセリング実践のための校内体制づくりをする。

キャリア教育の推進では、前述の実践事例にある、**企業の人事担当者を招いて話を聞く意見交換会**や**コラム5のソーシャルスキルトレーニング**が展開されています。

### 《参考となる文献》

千葉県総合教育センター（2007）. 千葉教育, 565.

野口吉昭編 HRインスティテュート（2000）. プレゼンテーションのノウハウ・ドゥハウ P H P 研究所

寺井正憲（2007）. 語りに学ぶコミュニケーション教育 上巻 コミュニティを育てるコミュニケーション教育 明治図書

上野一彦・岡田智（2006）. 特別支援教育[実践]ソーシャルスキル マニュアル明治図書

卯月啓子・首藤久義（1999）. ことばがひろがる I 東洋館出版社

安居總子（1996）. 授業づくりの構造 大修館書店



